音楽のよろこび

…京響メンバーによる大人の音楽教室(第5回)…

2018.8.27.(月) 発行文責 事務局 田中正恵 No.5 (通算12)

ショパンは、ポーランド人でもフランス人でもドイツ人でもない。
彼の出自はより高尚である、彼はモーツァルトとゲーテと、ラファエロの国から
やって来た。つまり彼の真の祖国は、詩情の国なのだ（ハイネ、音楽とは何か）より…
（ハイネは詩人…うまいこと言いますね…）

…7、8月、本当に大変な暑さでしたね、豪雨のキズ跡も未だ各地に…台風もつぎつぎ… 8月の今、新聞、テレビは、被爆者の方々、そして戦争体験者の大変な人生を掘りおこして報道しています。とても貴重な記事も多く、先の国会の有様、近年の政治動きから今を直視する様にとの良心的なものも多くあります。某紙に京大総長の山極先生(ゴリラ研究の世界的権威)の話があり、ゴリラは、サルより人間に近く、平和的でやさしい、そして、たたかいをきらい、いつも、いっしょに居る中で互いの意図や感情を、的確に読めるようになるのだそうです。そして体でつき合う事を通しよい関係をつくっていくというのです。そこに学び、私達人間も、たとえ敵対する民族や国家同士でも、両方の若者が一緒に学びあい、研究しあう事を数年続ければ、殺しあうことなどできなくなるはず…。とおっしゃっているのです。私は、これを読み、すぐ、ダニエルバレンボイム(ピアニスト、指揮者、1942年ブエノスアイレス生まれ、ウクライナ系ユダヤ人、1952年イスラエル移住…)と盟友エドワードサイード(1935~2003パレスチナ出身のアメリカの文学研究者)が、はじめた、ウエスト・イースタン・ディヴァン・オーケストラのとりくみを想いました。イスラエルとアラブの若い音楽家たちが、ドイツ人音楽家も交えて共同で西洋古典音楽をつくるプロジェクト、そしてその名称は、ゲーテの「西東詩集」(West-oestlicher Divan)という、ゲーテのペルシャ・イスラム文化への強いあこがれと関心から生まれた作品から来ているのだそうです。現実的にはイスラエル建国以来、ずっと敵対関係にある、イスラエルとパレスチナの青年たちが、一つのオーケストラをつくり、ヨーロッパ、中東、アメリカでコンサート、そして、パレスチナ自治区ヨルダン川西岸地区中部にあるパレスチナ自治政府の事実上の首都ラマッラーで、2005年、ほとんど不可能とされた様々な条件をのりこえ、コンサートを行なったのでした。(くわしくは、「バレンボイム音楽論・対話と共存のフーガ」にあります。) コンサートの成功がすぐ、平和に直結するものではない事は、自明のことですが「オーケストラのメンバーたちは、その出自に関わらず、だれもが、驚くほどの勇気、理解力、先見性を示している、私は、彼らは中東における新しい考え方のパイオニアだと考えたい」(バレンボイム)と述べているのです。

その他にも音楽を通しての国際的、地域的を問わず(つい最近も京都・長岡京で、日韓の演奏家の交流コンサートがありました)平和に寄与するとりくみは、たくさんあると思います。過去の戦争の時代、圧政の時代にあっても、少なくない、心ある音楽家、芸術家達は、それぞれのやり方で、ある場合は命をかけてでも、自由な音楽活動を創り、人々の多くの幸せのために力をつくして来た歴史があるのだと思います。先日のフルートの講座の中でも言われていたように、アウシュヴィッツ収容所の中でも、作曲がされていた事、そして近年、そのような作品への注目の度合が高まっている事なども私達は知りました。また、日本人作曲家として、活動中に日本軍に召集され、亡くなった方たちの作品への注目、掘り起こしも話題になっていますね、これは、絵画での「無言館」(戦没画学生の美術をあつめた美術館、長野県上田市)のとりくみにも似ていますね…。そんな事にも改めて、想いを馳せる、暑いアツイ夏でした。みなさまは、いかがでしたか●……

…おもいがけず長くなった… タナカの「ツブヤキ」…スミマセン… M.Tanaka

今日は fagotto・ファゴット

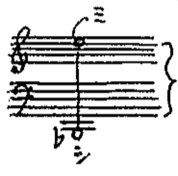
(basson・バスーン) 英語 とも

なんか、ユーモラスなかんじも、するし…

…ちょっと予習を…

- オーボエ属の最低音楽器 もっと低いのはコントラファゴット？
  〃2枚のリードで発音でした。
- 管は円錐形で、全長2.6m → 折りまげられた形状
- ホルンともよく調和するらしい…。
- ソロもバッチリらしい…。

辞書によると 音域は



とかいてあるけど…。

さて 今年度初登場… 興味シンシン…ですね、

☆ **首藤元さん** に ふいて もらいましょう

あたらしい会場、鴨沂会館での ホルン講座 どうでしたか。。

とてもとても暑い日、皆様、会場をめざして、テクテク。事務局は荒神口交差点と会場前でお待ちしました。でも、旧会場へ行かれた方も…事務局の車でお送りさせていただき、私たちもホッ!! やはり、ゆとりがあることは大切ですね、イスもマアマア、私達の会場づくりも、楽チンにできました。pp

アンサンブルのつどい in ふくちやま

10月14日(日) PM.2:00~

会場:ハピネスふくちやま

9月のこの講座でチケットを、よろしければどうぞ 1500円です。

来年どうしましょうか…

気がはやい!!とおっしゃる方もおられるかも!でも音楽家の皆さんは、早めにお願いしないと、ドンドン、スケジュールが混んでくるらしいので…。京響、御存知、金本さんと7月末に話しあいました。およそのイメージは..

- ■各楽器を1回登場ねがったので、残している、ハープ、ピアノを入れて、5月、6月、7月、9月、10月、11月(この内何回かは、ちがう楽器や、同じ楽器の二重奏、三重奏等とする)。
- ■8月はサマーコンサート、1月〃ニューイヤーコンサート ? どういうスタイルにするかは、未定です

年8回とします

この他 4月は入学式コンサートがあります。 ↓ストリングカルテット？ ピアノクインテット？ ピアノトリオ？

…みなさまのアンケートはウラに……

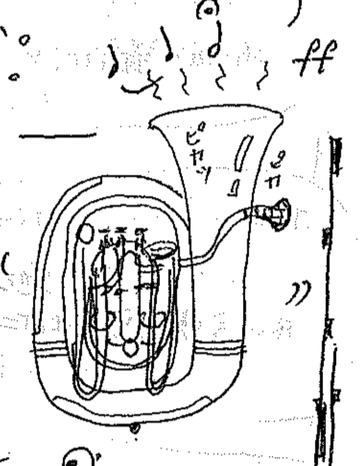
ホルンの小椋さん、今年も昨年におとらず、ていねいに、ホルンという楽器について、お話そして、えもいわれぬ美しいひびきでモーツァルト、ベートーヴェンをたんのうさせてくれました。

ピアノの宮崎さんは初登場でした、でも、この会場のピアノは弾き慣れた楽器ということで、小椋さんとのデュオ、すばらしかったですね。

小椋さんは、来年も、また、何人かのホルンの方とやりたい旨、おっしゃっておられました。実現するといいですね。 fff

- お話が、ちょっと聞きヅライ!!という声があり、後半からマイクを使ってもらいました。可能な事は、なんでもいたします、事務局に声をかけて下さい。“♡”

冷房対策に上着おもち下さい。
よろしく…。 ff



次回9月24日(月)は、

13:30~15:30

テューバです。

武貞茂夫さん 登場です。

ウム、なんか、ものすごい低音金管楽器の感じ…。ちょっと似たような楽器もいろいろあるような…。ブオーッて音かな？ プオーッて音かな？ 楽しみ!!

たのしかったです、第1回受講生の集い 7/28(土)

とても暑い日だったけど、当講座受講の皆様も参加され、ありがとうございました。“ ” 手品、うたごえ、体そう、(認知症対策も…?)に会場はわきました。その後の「交流会」での話しあいも、とてもフレンドリーに…。また、集いましょう“♡”